

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

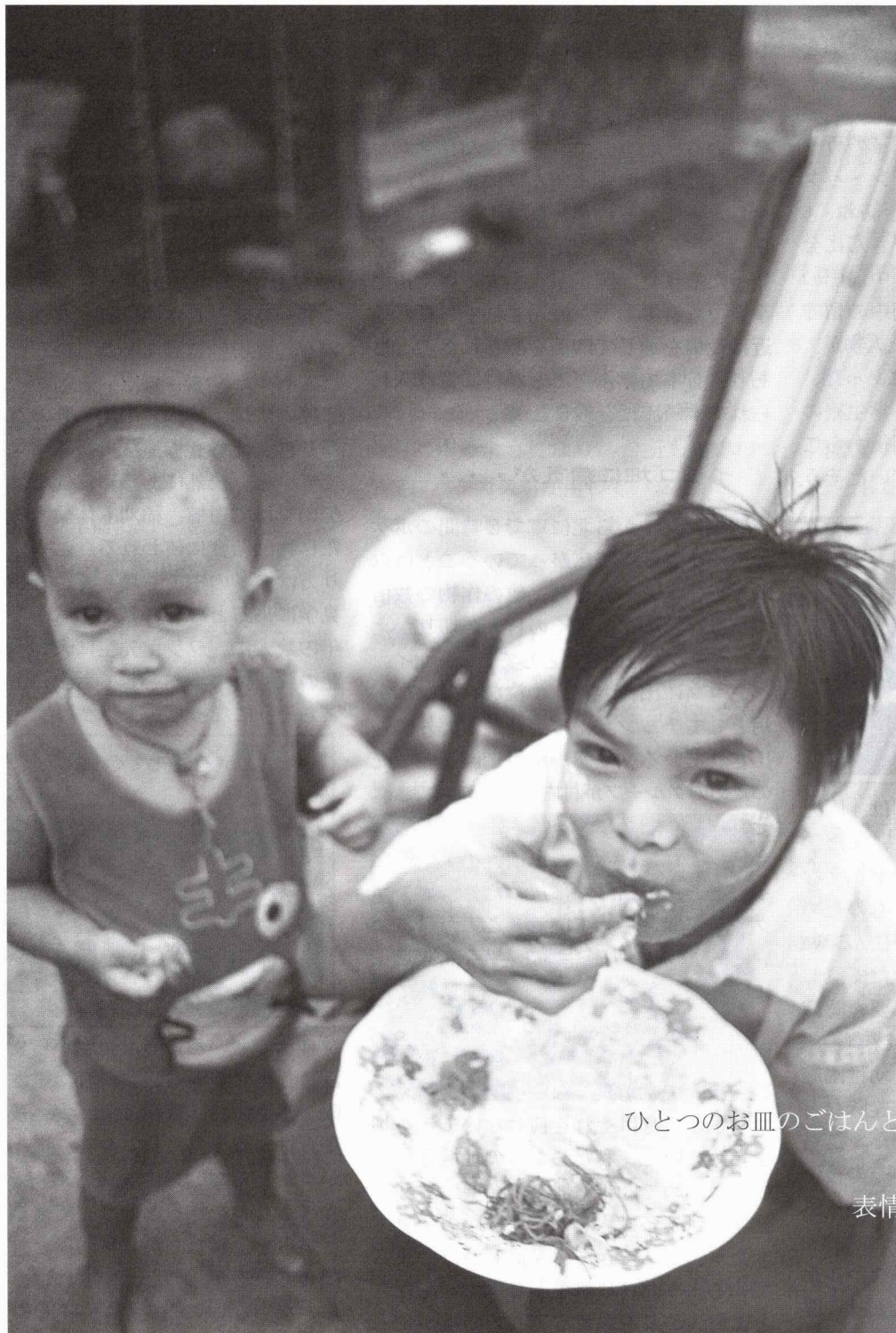
110

2009.3

- タイ・スタディツアー報告
- 研修生レポート
- 第13期国内研修生報告

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをさきあげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL: http://www.kisweb.ne.jp/phd
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



訪ねた農家の庭先で
お昼ごはんのふたり
ひとつのお皿のごはんとおかずをわけあって
おいしいのが
表情から伝わってくるね

東西南北 問題解決 取組日記

スラデさんのその後は

年末のスタディツアーの申込締切間際になって、タイの政情が不安定になった。それまでの政権に不満をもつ民主主義市民連合(PAD)に賛同する人々がスワナプーム国際空港を占拠し、機能が停止されてしまった。その後、事態の收拾があり、空港は再開されたものの、この一種の出来事から治安に不安を感じ、参加を取消す方が相ついだ。結果、参加者3人のこじんまりした出発となった。

チェンマイ到着翌日に、北タイのカウンターパートであるタイ・カレン・パブテスト会議(TKBC)の事務所を訪ね、6月に帰国した26期研修生スラデさんに会い、その後の報告をうけた。途中帰国の原因は、彼が日本での研修期間中の留守の仕事を引受ける約束をしていた人物が、その役割を果たせなかったことにあった。資金不足から山の村の幼稚園、学生寮の運営が立ち行かなくなり、帰国後からこれまでそのたて直しに奔走していたそう



04年に設立された村の幼稚園は、園児60人、職員4人で運営している。また学生寮は、村に学校がない、学費が払えない、身寄りがないといった子どものために08年に設立され、今は22人が住んでいる。このふたつの施設の運営のたて直しとともに、村の人々に開発の必要を認識してもらうための会合をもち、職業訓練、環境美化・保全、指導者訓練、幼稚園施設の改修、園内での野菜栽培、養豚などをすすめてきたとの報告をうけた。こちらからは日本の人たちが、彼のその後を心配し、その活動の成功を望んでいる気持ちを伝えた。

研修が途中で終了せざるを得なかったことは残念なことだったが、2カ月の間に日本でお世話になった人たちの期待に応えようとがんばっている様子がみてと

れた。今後もスラデさんからは報告をうけていきたい。

研修が活きる時がやってきた

ビルマ国境に接するメーホンソン県メーサリアン、ペー村で農業を行うナロンデさん(01年度)によれば、08年は、化学肥料の値段が倍になったそうだ。それまでのように気安くは使えなくなり、村人は牛の糞や大豆の殻を作って堆肥を作りはじめていた。農業のこわさも理解されはじめ、化学合成のものを買うのではなく、木の葉など植物の成分を作って使うこともある。さらに1ヶ月に1回、村人百人ほどがお寺に集まり、堆肥の販売や農作物を売るお店の計画などを話し合っているという。ナロンデさん自身も、それまではそのまま田んぼにまいていたもみぎらに大豆の茎・葉、牛糞、豚糞をまぜて作った堆肥で土を良くし、お米を作ったそうだ。国王が支援する農業指導事業でも有機農業が採用されており、最近では役場を通じてEM菌を配られたこともあり、日本で学んだことが村に受け入れられやすい流れを感じた。

イチゴ畑に病気が・・・

チェンマイから北に車で2時間のポケオでイチゴ栽培が広がっていることは以前から報告してきた。他の作物の数倍の値になるので、多くの村人が切りかえた。大きな実は生食用としてチェンマイ、バンコクに出荷され、小粒なものは加工用としてチェンマイの会社から海外に輸出されている。生産が軌道にのり、販売のためのグループが村内にいくつもでき、それなりに順調にやってきた。ところが今年、訪ねてみると、以前、イチゴ畑だったところが田んぼに戻ったり、ニンニクや花が植えられているところが目についた。この村の研修生コマさん(87年度)に聞けば、葉っぱが赤くなって枯れてしまう病気が広がってしまったという。原因はよくわからないが、農薬、化学肥料に頼りすぎが良くないのではと考え、コマさん自身はそれを使わないモデル畑を始めていた。私たちがこの地域と付き合いはじめて20年、農業の発展は農薬、化学肥料の多投入を伴ってきたのを見てきたが、ここにきて、見直しがはじまっているようだ。研修生が日本で学んだことに村人が耳を傾けてくれる時機がやってきたと感じた。コマさんの試みに期待したい。



野菜のとれる小学校

バンコクの近郊には、東北タイ、カラシン県出身の研修生ワラヤさん(88年度)が小学校の先生をしている。カラシンには何度もかけてきたが、今回初めてこの学校で働く彼女を訪ねることができた。スワナプーム空港から車で一時間のクロンサムワにワッサイスック小学校がある。幼稚園も併設され、子どもの数は900人弱、先生は16人。ワラヤさんはここで、英語、日本語、日本文化を教えている。専用の教室もあり、浴衣などが飾ってあった。

校内に畑、淡水魚の池、きのこ小屋があり、生徒も有機農法で野菜、果物を育てている。校外にある田んぼでは親の手伝いを得て田植、稲刈も体験する。穫れた作物は給食に使われる。こういったやり方はタイの中でも珍しく、首相なども見学に来るといふ。私たちが小学生高学年の教員に、ワラヤ先生に教わった日本語の説明付で案内をしてもらい、お昼をごちそうになった。

生徒さんが案内してくれました



日本でもいろいろな角度から食と農が注目を集めている。食料自給率、賞味期限、産地偽装、農業就労、食べ残し・廃棄食材、減反見直し、食育、様々な項目がニュースに扱われている。食べること、食べるものを作るというとても重要なことがらを、私たちが日常的にどれだけ意識しているか。のど元すざれば、何とやらとならぬことを思い、PHDの活動の中でも大切にしていきたい。

総主事代行 藤野達也

PHD運動をより多くの皆さんとともに！ 会員拡大キャンペーンやります！ 2009年4月1日～6月30日

ここ数年会員数が大幅に減少しています。現在会員数は1,657人。5年前(2003年度)と比較すると400名減少しています。提唱者岩村昇先生が亡くならないという若い世代もたくさんいます。私たちは世界の中に環境問題、貧困、紛争など、多くの問題を抱えています。それらは遠くの問題のように見えて、実は私たちの生活、私たちの日々の行いとつながっています。「生きるとは分かち合うこと」というメッセージを、現在のような殺伐とした時代に

こそ、心に留め、そのためにはどのようにすればよいかということと一緒に考えていきたいと思います。会員でない方には会員となって、また、まだPHD活動をご存知ない方には是非この機会に活動を知っていただき、共にPHD運動を推進していければと思います。新たに会員になっていただいた方には、夏の1日ツアーにご案内します。事務所訪問に加え、研修生の研修現場を見ていただく予定です。

タイ・スタディツアー報告 カレンの村を訪ねて 12月23日～2009年1月3日

今回は、7年前にも一度訪れたことのある保健衛生の研修指導者、寒者恵さんに参加いただきました。そして、カレンの布グループのミーティングで集まった村の女性に保健衛生についてのお話をいただきました。

参加者の中からおふたりの報告を。

7年前と比べて

寒者恵さん・保健師

村の生活や環境は、7年前と比べるとかなり改善されていました。家や道路がきれいになり、車や単車を持つ人が増えました。車を運転する女性も。シードンチャイでは1人、ムシキーでも5人だけが運転できるそうです。

村でも冷蔵庫やテレビ、炊飯器などははじめとする家電や携帯電話は当たり前前の現在、環境衛生や栄養のこと、歯の衛生などは、置きざりにされたようです。今も歯磨きは、朝起きた時と答えてくれた女性が多いのが現状で、残念な思いをしました。

トイレや水浴び場などは、通常離れにあるのが一般的ですが、新築の家では、屋内に作るようになり、台所も薪のほかプロパンガスも使用しています。

また、食事については、村の人たちが通常食べている量はわからなかったのですが、職員の藤野さんが村の人と一緒に作ったカレーなどは、栄養のバランスを知ってもらい良い機会となるので、今後も現地の材料をつかってみんなで一緒に作る時間があってほしいと感じました。



保健衛生についてお話をしている寒者恵さん(右)

物質的に豊かな生活を求めることは、誰にも止められません。その反面失うものが多いことを今の私達は知っているからこそ、研修生を中心にしてみんなで一緒に考えながら、村の人たちの健康や暮らしやすさを探求することが大切と感じました。



わたしにできること

野澤恵さん・教員

国際協力なんて今までちゃんと考えたこともなかったし、海外にもあまり関心なかった。

そんな私が、タイのことが大好きになった。何らかのかたちでこの国とあの人たちとつながりたい。

協力や支援なんて堅苦しく考えると難しくなる。まずは、旅で学んだことを宝物に毎日の生活を送ることもその一つなのではないかと思う。ムシキー

で買ったポーチを大切に使い、そこに込められたお母さんたちのストーリーや思いを伝えていくことだって恩返しになる。タイと日本というような線引きをせず、同じ1人の人として支え合えることができれば自然と素敵だと思う。「また行きたい」ではなく「また逢いたい」、だから行きたい。そしてこの大きな大きな感謝の思いを伝え、こんな私にだってできることを一つでも探

したいと思う。「世界に目を向ける」「ものを大切に」「こころを大切に」等々、今すぐにできることを一つひとつ実践していきたい。



左からボーボーハンさん、ペリスマンさん、国内研修生木下さん

26期生研修生レポート

問題や生活保護、産廃問題などについて学びました。これらの問題について学ぶことで、決して村の生活とも無縁ではない環境問題と経済発展の裏側についてじっくり考え、新しい気付きを得ることができました。

11月以降の共通研修では、村に帰ってからのグループ活動の参考とするため、協同組合や消費者グループについて学び、組織

26期の研修を振り返って

実りの秋、ペリスマンさんは兵庫県内で、ボーボーハンさんはバスに揺られて愛媛県まで足を運び、それぞれ研修に励みました。土着菌を利用した肥料や自然農薬作り、また、炭焼きや木酢液作りは村にある資源を利用して取り組めるため、研修生も帰国してからの活動に意欲を示します。

11月と1月は恒例の研修旅行。東日本研修では皆様との交流の機会が行程の多くを占めますが、今年度初めての試みとして、伊勢湾に流れ込む三つの川の河口にある藤前干潟で住民活動と環境保護について学びました。西日本研修では公害

私は日本でゆきのお話をよくお聞きのことやみなまた、ゆきやけはくのお話のことをべんきょうしました。そしてあわじ島のモンキーセンターでゆきをつくったたべもの「まめバナなど」をたべたさるたちはゆきになりました。ゆきのお話をよくお聞きしながら村をおもいます。今村ではゆきをつくさんつがていますがたりへんあがないです。ですから村にがえたら日本でべんきょうしたことをはなしてグループをつくりまます。それからゆきのお話をよくお聞きしたいとおもいます。一年間みな様のあかげでべんきょうはよくできました。どうもありがとうございまして。これからもよろしくおねがいします。

ボーボーハン(インドネシア)

運営のアイデアを得ました。

最後の個別研修となった保健衛生研修では、乳幼児の成育や栄養、成人・高齢者の健康について学び、日頃から自分たちの健康について考え、病気の予防に努めることが大切だということに気がきました。

日本での一年間の研修もあつという間に過ぎ去りました。研修生はこれから、研修で学んだことを一つずつ試行錯誤しながら自分なりに取り組んでいくことになります。

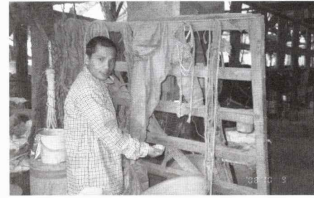
(高垣隆博)

インドネシアのゆきのお話をよくお聞きしました。かがくいりたつがアツクおおいになるよやさしいけんきにならぬそのやせは木にんげんたへてからだをやるくなります。日本でゆきのお話をよくお聞きしました。ゆきをつくるときにこめぬかとけいふんとあぶらかすとカルシウムもまぜまます。にわりのえさ、もろこし、こめぬかたがあぶらかす、きよふん、かいがらもまぜまます。それからせんじ、まぜたものゆきとあぶらかをあげまます。ゆきのお話をよくお聞きしました。日本のゆきにかんえんのくさをあげてゆきをつくったゆき、あぶらかカルシウムなどをあげまます。インドネシアにがえたらグループをつくってゆきのお話をよくお聞きしたいとおもいます。ゆきのお話をよくお聞きしたいとおもいます。ゆきのお話をよくお聞きしたいとおもいます。ゆきのお話をよくお聞きしたいとおもいます。

ペリスマン(インドネシア)

10月～3月の研修

ペリスマンさん (インドネシア・27歳)



牛の飼育について学びました(真柴さん宅)

- 10/6～16 真柴三幸さん (兵庫県佐用町/酪農・肥料)
- 10/23～31 橋本慎司さん (丹波市/養鶏・稲作・野菜)
- 12/2～6 大森昌也さん (朝来市/炭焼き・木酢液)
- 2009/2/2～9 三木市総合保健福祉センター (三木市/衛生・栄養・健康)

ボーボーハンさん (ビルマ・25歳)



村でもよく食べる生姜。帰国後、栽培してみたい作物のひとつです(泉さん宅)

- 10/7～25 泉精一さん (愛媛県松山市 / 養鶏・野菜・果樹・肥料)
- 10/25～11/1 西川則孝さん (愛媛県西条市/養鶏・野菜・果樹)
- 12/2～6 大森昌也さん (朝来市/炭焼き・木酢液)
- 2009/2/3～10 丹南健康福祉センター (篠山市/衛生・栄養・健康)

共通研修

- 11/7 コープこうべ (神戸市/協同組合)
- 12/7 里山保全活動(篠山市)
- 12/13 食品公害を追放し安全な食べ物を求める会 (神戸市/住民組織化)
- 12/17 淡路島モンキーセンター (洲本市/残留農薬の弊害)
- 山口勝弘 (南あわじ市/果樹)
- 12/18 生協なでしこ歯科 (神戸市/口腔衛生)
- 2009/1/29 コープこうべ

- (神戸市/協同組合)
- 2/8 里山保全活動(篠山市)
- 2/12 生協なでしこ歯科 (神戸市/口腔衛生)
- 2/21～22 旅路の里 (大阪府大阪市/釜ヶ崎の歴史や現状)
- 2/23 JA兵庫六甲 (神戸市/協同組合)
- 2/27 コープこうべ (神戸市/協同組合)
- 3/7 帰国報告会(神戸市/研修報告)
- 3/10～18 フィリピン比較研修旅行

東日本研修旅行 2008/11/12～11/21

<愛知県>藤前干潟～南山短期大学～アユス東海・宝泉寺～トヨタ自動車労働組合～岐阜県>日本基督教団・中濃教会～<愛知県>小牧幼稚園～静岡県>東海大学海洋学部～<東京都>日本基督教団・梅が丘教会～<神奈川県>もみの木クラブ～山崎・谷の会～<東京都>日本労働組合総連合会～全日本自動車産業労働組合総連合会～ロータリー米山記念奨学会～恵泉女学園大学～<山梨県>牧丘第二小学校～山梨英和中学校・高等学校～山梨YMCA～韮崎教会/園場見学(井上誠次氏宅)～<長野県>塩尻めぐみ幼稚園～日本基督教団・松本教会



労働組合について学びました(自動車総連)

西日本研修旅行 2009/1/15～1/26

<鹿児島県>かこしま有機生産組合～だるま保育園～<熊本県>ほっとはうす～<鹿児島県>出水市交流会～<熊本県>水俣病センター相思社～熊本YMCA～<福岡県>日本基督教団・福音伝道所～高槻市民センター交流会～<福岡県>旭ヶ丘会館交流会～<山口県>梅光学院大学～梅光女学院高等学校～<広島県>平和学習～<灰塚コミュニティセンター交流会～共生庵～<岡山県>岡山YMCA～産廃処理場見学(福谷エコクラブ/御津の「みどり」と「清流」を守る会)



生産者組合の方から土づくりのお話を聞きました。(かこしま有機生産組合)

研修指導者から一言

中川克敏さん(島根県川本町/米・野菜・花) 8月7日～18日 ボーボーハンさん研修

20年近く多くの研修生と汗を流してきました。近頃は彼らも長い学校教育を受けています。先進地とされている日本で何を学びとるかは個人の力量と意欲にかかっています。私は日本の農業を支えている科学的知見と合理的な動きに注目してほしいと思います。ともすれば農業は非生産的な3K職場として貶められたり、他方生命を育む崇高な天職だと異常に高くもてはやされたりします。

一過性の時流や、断えずささやかに科学の名を騙つた農法や怪しい資料に惑わされることなく物事の道理を見極める力をつけてもらいたいと望みます。帰っていく農村はこれからも過去と決別して急速に変わっていくでしょう。利巧な農民になってもらいたいのです。

渋谷富喜男さん(神戸市西区/米・野菜)

9月8日～24日 ペリスマンさん研修

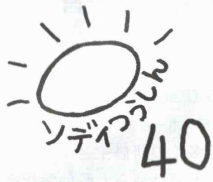
まだ残暑が激しい時、ペリスマンは来た。野菜に秋の重大な虫が付き始めた時だった。彼の研修中の大部分を虫取り作業が占めることになった。インドネシアと同じ虫がいる、農業で退治すると言っていた。秋野菜の定植作業もいよいよ、手際良くやっていた。村に帰って、野菜の苗作りをし、手で虫取りをする経験がどれ程役立つのか、自分なりの工夫をして頑張ってもらいたい。

コープこうべ 六車恵美子さん

(神戸市/協同組合) 共通研修

11月7日、1月29日、2月27日

研修生のみなさんには、協同組合の理念や、商品の安全や環境の取り組み、地域のネットワークづくりなどを学んでいただく場を提供しています。一方、PHD協会のご協力により、私たちは組合員さんの学びと交流の場をもつことができます。これからも「学び合い、つながり合う」関係でいたいと願っています。



今年もメーホンソン県メーサリアンの「ルチョコ」と、チェンマイ県ムシキーの「チョコディ」のふたつの布グループを訪問しました。昨年より、それぞれ布グループが活発に活動

し、お母さんたちのやる気が感じられました。

「ルチョコ」は、村役場からの支援により、シードンチャイ村に布の販売小屋を建て、主にタイ人の旅行客に販売しています。村役場からは、染めや織りの技術指導、糸や備品の提供もあるということで、環境が良くなり、町の人たちの好むものをつくって積極的に販売しているようになっています。



新しい拠点で話し合うルチョコのメンバー

ムシキーでは、布グループ「チョコディ」とは別に民芸品全般をつくり、販売するグループが満足していました。昨年



チョコディのお母さんたちとスタディツアー参加者

の研修生チャユーさんもそのグループの一員です。

チャユーさんは自作のカレンの伝統的な弦楽器も売ろうと考えています。彼

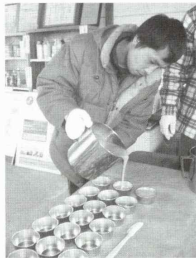
は、日本では有機農業を勉強するだけでなく、PHDでバザーの手伝いをする中でヒントを得たようです。日本での経験がいろいろな形に広がっています。

また、今回はチョコディのみならず「試作品を日本に送るので、それが良かったら買って下さい」という提案がありました。今までむこうからの積極的な働きかけがなかったので、ここでも新しいものをつくって売っていききたいという意気込みが感じられました。サンプルが届くのが待ち遠しいです。

ゆっくりとした活動の中でお互いに刺激し合い、新しいアイデアを出し、楽しみながらやっています。その作品からは、そのあたたかさが伝わっています。新しく生み出される作品を皆さん楽しみにしてください。

同じ買うなら、使うなら!

No.13 エコネットみなまのせっけん



廃油を使ったせっけん作りを挑戦するベリスマンさん

PHD協会では毎年1月に、研修生の社会勉強の一環として熊本県水俣市を訪問し、「平和で健康な村づくり」をしているためにはどのようにしていけばよいのかということで、水俣病の歴史を通して公害がもたらす影響、問題について学ぶ機会を持っています。

水俣病は、主に企業活動の中で引き起

こされたという歴史があります。それはつまり私たちが物質的に豊かな暮らしを求めてきたことに対して企業が応答し、けれど利潤追求をするあまりに社会的責任がないがしろにされたことがあるのではないのでしょうか。

ここ数年、水俣市にある企業組合エコネットみなまを訪問しています。ここでは、水俣病によって人々が甚大な被害を受けたこと、かけがえのない海など自然を破壊してしまったことの反省から、手作りせっけんが作られています。一度使用された廃油をリサイクルして作っているせっけんで、その一つ一つには水俣病の悲劇を二度と起こしてはいけないという強い決意と願いが込められています。その他にもせっけんシャンプーやリンス、歯磨き粉などの商品もあり、環境と同時に私たち自身の健康とは何かを考えさせてくれます。

一人一人ができることは小さいことかもしれませんが。しかし私たちが真剣に考え行動に移れば変化を起こすことができ

るのではないのでしょうか。まずは大切なメッセージが込められた水俣せっけん工場のせっけんから始めてみませんか?

- なんさまヨカ石けん (台所用石けん) 110g×2個 200円
- ミントお風呂の石けん (固形石けん) 100g×3個 420円
- 台所用液体石けん 600ml 315円
- せっけんはみがき 180g 315円



合成界面活性剤の危険性について永野隆文さんから説明を聞きました

お問い合わせ先

企業組合エコネットみなま
〒867-0034 水俣市袋337-4
TEL&FAX 0966-63-6005
Email sekken@minos.ocn.ne.jp

半年間の研修を終えて

第13期国内研修生
木下和磨

食糧問題、水俣病、筑豊の炭鉱労働者問題、広島での原爆被害など一連のPHD協会の研修によって、それらの問題に対する問題意識を持ち、考え始めたことは私にとって大きな収穫になりました。なぜなら私の世代の多くの人にとって、以上で挙げた事柄は古い過去の話と思われ、忘れ去られようとしている話だからです。しかし問題の本質を忘れ去ってしまつてはまた同じことを繰り返すこととなります。例えば筑豊の炭鉱労働者が需要の低下と共に一斉に首を切られ未だに貧しさから抜け

出せないということがあったにもかかわらず、今非正規雇用者が100年に1度の世界不況と言われる中でどんどんと首が切られています。私たちは過去に起こった問題の本質を考えることを忘れ、また同じことを繰り返しているのではないのでしょうか。だからこそ、これからを担う私たちの世代が主体的にこれら問題について考えることが必要であると気づきました。

PHD協会の研修から聞かされていることは「本当の豊かさとは何か」ということです。そしてそのヒントはPHD協会が伝えている「Living is sharing」の考え方です。家庭の崩壊、地域の崩壊など今では個人が尊重され、人とのつながりが軽視され過ぎるこの日本だからこそ「生きるとは分かち合うこと」

ということをもう一度見直さなければいけないのではないのでしょうか。これからより良き社会、そして世界は何かと考えていく上で僕のベースとなったものであろうことを学ぶことのできた6か月でした。迷惑をかけ続けたにもかかわらず笑顔で接して下さった職員さん、ボランティアさんそして研修生の皆さん、ありがとうございました。



釜ヶ崎勉強会の進行役をする木下さん(左から二人目)



農業体験

11月24日、兵庫県中町で有機農業を営んでいる岡野圭佑さん、美代子さんの農場にだけかけました。岡野さんとは会報107号の「同じ買うなら、使うなら」で取材をさせていただいたからのお付き合いです。若い就農者が増えているけれど、農業だけでは生計が立てられず、後継者が育ちにくいそうです。彼らを支えてほしいと言われました。有機農業への関心が徐々に高まっていますが、その先にある日本の農業への危機感がまだまどうく、消費する私たちの意識が変わらなければ、農業の根本的な問題は変わりません。お店で有機野菜を購入するだけでは、見えてこない、その先にある農業の現状を知る貴重な一日となりました。

林業体験「里山保全活動と椎茸栽培in 篠山」



12月7日、2月8日の2日間、兵庫県篠山市大山で、椎茸栽培作業を行いました。1回目はほだ木にするための木を伐りだし、2回目は椎茸の菌を植え付ける作業を行いました。椎茸ができるまで2年程かかります。先人は森で作業をし、山や田畑を守り、そして農村を守ってきました。椎茸栽培の一連の作業を通じて、里山で活動することは、今、私たちが失いつつある大きなものに気付かせてくれます。

- 11月 1日 神戸大学発達科学部附属佳吉中学校文化祭 バザー
- 11月 2日 三木かなもの祭り バザー
- 11月 4日 のぞみ保育園交流会
- 11月 6日 富田林高校ワークショップ「ビルマの村から」
- 11月15日 NGO福岡ネットワーク・NGOカレッジワークショップ「世界の取り組み 世界の問題」
- 11月23日 コープ佳吉「ボランティア大会」バザー
- 11月24日 農業体験 岡野圭佑さん・美代子さん宅
- 11月26日 わっしょいチャイナタウン バザー
- 11月27日 前之庄小学校交流会
- 11月28日 明石城西高校交流会
- 11月28日 自治体国際化協会 地域国際協力フォーラムパネルディスカッション
- 11月30日 PHD祭りin但馬
- 12月 1日 明石城西高校交流会
- 12月 6日 タイ・スタディツアー説明会
- 12月 7日 林業体験「里山保全活動と椎茸栽培in 篠山」①
- 12月11日 阿弥陀小学校交流会
- 12月13日 コープこうべ平和学習ワークショップ「わたしの国際協力」
- 12月17日 灘小学校交流会
- 12月18日 国際ソロプチミスト姫路西講演「平和と健康を担う人づくり」
- 12月17日 芦屋大学講義「現代職業事情」
- 12月21日 武庫川女子大学「アジア思国歌コンサート」
- 12月21日 ワンワールドフェスティバル パネルディスカッション「大学生の国際協力・交流活動へのとりくみ」
- 12月23日~1月3日 タイ・スタディツアー
- 1月 7日 帝塚山学院大学講義「ボランティア論」
- 1月 9日 神戸市シルバーカレッジ講義「私たちの国際協力」
- 1月 9日 関西学院大学講義「NGO・市民の役割」
- 1月11日 Youth Meets A² -開発途上国の人々と私たちの接点から持続可能な明日を考えよう-活動発表会・開講式 パネル討論
- 1月14日 龍谷大学講義「国際NGO論」
- 1月28日 サザンネット
- 2月 1日 タイハツ労働組合第12期夢創塾講演「NGOから見た日本」
- 2月 5日 箕面市立東小学校ワークショップ「ビルマの村から」
- 2月 8日 林業体験「里山保全活動と椎茸栽培in 篠山」②
- 2月14日 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎 事前説明会

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2008年	10月	61件	¥2,989,975
	11月	65件	¥1,153,236
	12月	543件	¥7,061,987
2009年	1月	156件	¥1,802,642
		825件	¥13,007,840

世界規模での金融恐慌と経済不況にもかかわらず、今年もたくさんの方々に年末募金にご協力いただきました。期間中（11月末～1月末）には570件で8,158,629円のご寄附をいただきました。

また、全日本自動車産業労働組合総連合会様、美木陽子様からは多額のご寄附を頂戴いたしました。心から感謝申し上げます。4月から3ヵ月間、会員拡大キャンペーンを行います。お知り合いの方にも是非PHDの活動をご紹介ください。

◆2009年度スタディツアーご案内

研修生の村を訪ねるスタディツアー。今年の夏もネパール、インドネシア、ビルマを訪問し、年末年始にはタイ、3月には研修生とともにフィリピンを

訪ねます。昨年ビルマとタイのスタディツアーでは事前に勉強会をし、村では参加者の皆さんと「村歩き」をしました。今年も村の情報を収集していただくことで、より深く村の現状を知り、その問題解決を一緒に考えます。

これとは別に、学校教育、農業などさまざまな分野でのスタディツアーのご相談にも応じます。日程、内容等はお問い合わせください。

- ネパール 7月下旬
- インドネシア 8月下旬
- ビルマ 9月上旬
- 北タイ 12月末～2010年1月上旬
- フィリピン 3月中旬
- 金額 約20万円

◆タイ・カレンの草木染め手織り布の新作が届きました



年末年始のタイ・スタディツアーで、カレンのお母さんたちの織った草木染

めの布を仕入れてきました。今回は新しいデザインのヤムカバンやトートバッグ、ポーチもあります。これから各地でのバザーで皆さんにご覧いただきます。またPHD協会事務所に直接お越しいただき、ご購入いただくこともできます。

◆今年もやります！農林業体験プログラム

昨年度もたくさんの方にご参加いただきました。2009年度も皆さんと共に、主に兵庫県下の現場に学ぶ活動を企画します。興味のある方は是非お問い合わせください。

- 農業体験 4月下旬から
- 林業体験（椎茸の栽培作業） 5月中旬

○月×日のPHD協会

この冬、健康を担う人づくりを支える人たちは・・・

職員 川原 今季3回目の風邪ひき。本人はデリケートだからと。周囲は年ではないかと。いずれにしても、事務所ではずっとマスク姿。お大事に。

職員 三輪 西日本研修旅行合流前に風邪の気配を感じ、医者に走り、処方を受ける。胃薬とともにのむ強力な薬で、一晩で撃退。元気に広島に。

国内研修生 木下 正月明けに風邪をひくも一度回復。再発防止にボランティアさんに乾布摩擦を勧められ、実行して、また風邪をひき、笑いに。

職員 高垣 マスク姿で事務所に。ついに風邪にやられたかと尋ねると、斜め前からやってくる2人のバイ菌に冒されないための対策とか。予防第一。

職員 藤野 今季、幸いにも風邪に縁なく。ただしタイ出張時の村での夜中の頻尿には閉口。水分摂取過多？寒さ？やっぱり年？

職員 佐々木 年が明けても続く医者通い。歯医者さんは長期戦。それ以外にも鼻血と風邪で別医者へ。直近のお腹の不調は自宅療養で。忙しい。

(重ね着の多い順)

制作協力：菅原宗晋 増本一朗
坂井時和 松本"顧問"直樹
-再生紙を使用しています。

第27期生 もうすぐ来日します



ロザ ノフェルマさん
インドネシア・20才・女性



ビショ ジット ラマさん
ネパール・21才・男性



ザー ナウンさん
ビルマ・21才・男性

草の根交差点

「あなたはなぜここに来ているんですか？」突然のしかも本質的な質問に戸惑った。ある屋下がり事務所でのことだった。私は言葉に窮し、はぐらかすように「ここのお嬢さんたちが素敵だから」質問者の顔は笑っていた。どう受け取ったのだろうか、でも全くのまかせではない。ボランティアを楽しく続けられるかどうかは、1.その団体の趣旨に共鳴で

きるか 2.ボランティア活動作業が楽しいものか 3.団体メンバーが楽しく美しいか、の3点につきると思っている。

ベリスマン、ポーポーハンを見れば、その可能性に夢はふくらみ、切手作業をしていれば切手を送ってくれる人たちの顔を思い浮かべ、雑誌をしていては、ここに集まる人たちの話は別世界のくつろぎだ。事務所を一步外に出ると、しかめつらした人々が行き交う。善悪あふる楽しい場を1つでも多く持ちたい。

(ボランティアS)